

## 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人埼玉大学

### 1 全体評価

埼玉大学は、時代を超えた大学の機能である知を継承・発展させ、新しい価値を創造することを基本的な使命としている。第3期中期目標期間においては、第1に次代を担う人材を育成する高度な教育を実施するとともに多様な学術研究を行って新たな知を創造し、その成果を積極的に社会に発信すること、第2に産学官の連携によって、知の具体的活用で現代の諸課題の解決を図り、また地域社会のニーズに応じた人材を育成して、広域地域の活性化中核拠点としての役割を積極的に担うこと、第3に多様なグローバル人材を育成するとともに世界的諸課題に学術成果を還元し、国際社会に貢献することを目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

|        | 顕著な成果 | 上回る成果 | 達成 | おおむね達成 | 不十分 | 重大な改善 |
|--------|-------|-------|----|--------|-----|-------|
| 教育研究   |       |       |    |        |     |       |
| 教育     |       |       | ○  |        |     |       |
| 研究     |       |       | ○  |        |     |       |
| 社会連携   |       |       | ○  |        |     |       |
| その他    |       |       | ○  |        |     |       |
| 業務運営   |       |       |    | ○      |     |       |
| 財務内容   |       |       | ○  |        |     |       |
| 自己点検評価 |       |       | ○  |        |     |       |
| その他業務  |       |       | ○  |        |     |       |

#### （教育研究等の質の向上）

埼玉県との意見交換を実施し、企業から提示された課題に対し、グループディスカッションやフィールドワーク等のアクティブラーニングを通して課題解決を導き出す、文理融合教育実践の一環である課題解決型プログラムを導入するとともに、工学部において、高等学校2年生や民間企業に対して新カリキュラムに関するアンケートを実施し、結果を踏まえて文理融合教育を目的とするイノベーション人材育成プログラムを学科横断的に導入している。また、首都高速道路株式会社との包括連携を締結し、協定の一環として共同研究したDAKプレキャスト壁高欄の実大載荷実験を実施し、首都高速道路として初めての採用につなげている。

#### （業務運営・財務内容等）

特定目的事業の寄附金の創設や積極的な広報展開により増加した寄附金を活用し、学生の語学力向上、多文化理解に資するものとして外国人留学生と日本人学生との混住型の国際学生寮「埼玉大学インターナショナルレジデンス」を設置するとともに、寄附者の意向に沿った給付型奨学金制度「冠奨学金基金」の開設により、留学生を含む学生支援を強化

## 20 埼玉大学

するなど、グローバル・キャンパス構築のための学内環境を整備している。

一方で、「業務運営の改善及び効率化」に関する項目 2 事項について、「中期計画を十分には実施していない」と認められることから、改善に向けた取組が求められる。

## 2 項目別評価

## I. 教育研究等の質の向上の状況

## &lt;評価結果の概況&gt;

|                          | 顕著な<br>成果 | 上回る<br>成果 | 達成 | おおむね<br>達成 | 不十分 | 重大な<br>改善事項 |
|--------------------------|-----------|-----------|----|------------|-----|-------------|
| (I) 教育に関する目標             |           |           | ○  |            |     |             |
| ①教育内容及び教育の成果             |           |           | ○  |            |     |             |
| ②教育の実施体制                 |           |           | ○  |            |     |             |
| ③学生への支援                  |           |           | ○  |            |     |             |
| ④入学者選抜                   |           |           | ○  |            |     |             |
| (II) 研究に関する目標            |           |           | ○  |            |     |             |
| ①研究水準及び研究の成果             |           |           | ○  |            |     |             |
| ②研究実施体制等の整備              |           |           | ○  |            |     |             |
| (III) 社会連携及び地域に関する<br>目標 |           |           | ○  |            |     |             |
| (IV) その他の目標              |           |           | ○  |            |     |             |
| ①グローバル化                  |           |           | ○  |            |     |             |

## (I) 教育に関する目標

## 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

## 2. 各中期目標の達成状況

## 1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目）

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-1-1 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 文理融合の課題解決型プログラム

文理融合教育実践の一環である課題解決型プログラムについて、埼玉県との意見交換を実施し、平成29年度に導入している。同プログラムは、企業から提示された課題に対し、グループディスカッションやフィールドワーク等のアクティブラーニングを通して課題解決策を導き出すように設計されている。(中期計画 1-1-1-1)

○ 工学部での文理融合型教育

工学部において、平成28年度から平成29年度に高等学校2年生(51高等学校、6,517名)及び民間企業(189社)に対して、新カリキュラムに関するアンケートを実施し、この結果を踏まえて、文理融合教育を目的とするイノベーション人材育成プログラムを学科横断的に導入している。(中期計画1-1-1-2)

1-1-2 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-2教育の実施体制等に関する目標 (中項目)

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

## <特記すべき点>

(特色ある点)

### ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

コロナ禍のインターンシップに際し、受入先企業に対し、文書で感染対策が講じられているかを確認し、確認の取れた企業に学生を派遣している。また、通信環境の整っていない学生へのWi-Fiルーター貸与、オンライン新入生ガイダンスの実施、各学部におけるオンライン履修相談体制をとっているほか、寄附金を財源とする給付型の独自奨学金制度を設けている。この他、教員に対してはオンライン授業に関する支援（オンライン教育に関する情報共有の仕組みの構築、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施）を行っている。

#### 1-2-2（小項目）

##### **【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

#### 1-2-3（小項目）

##### **【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

#### 1-3学生への支援に関する目標（中項目）

##### **【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

#### 1-3-1（小項目）

##### **【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

## 20 埼玉大学

### <特記すべき点>

#### (特色ある点)

#### ○ メンタルヘルスに関する相談体制の整備

ハラスメント、精神障がい・発達障害・心理的問題、学業以外の生活、将来への悩み等、学生が修学上直面するあらゆる相談に対応するため、学内機関のなんでも相談室、保健管理センター、ダイバーシティ推進オフィスと連携する相談体制の充実に努めるとともに「なんでも相談室勉強会」、「メンタルヘルスケア連絡会」を実施している。また、チャットボットを導入し、24時間学生からの質問に答えられる仕組みを整えている。これらの取組により、なんでも相談室の相談件数は、平成28年度349件から令和元年度985件に増加している。(中期計画1-3-1-1)

### 1-3-2 (小項目)

#### **【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

### <特記すべき点>

#### (特色ある点)

#### ○ 新型コロナウイルス感染症下における経済支援

修学サポート基金を原資とする「埼玉大学緊急支援奨学金」の給付、学生食堂のコロナ禍フード支援「メリンちゃんスペシャルカレー」の無料提供、クラウドファンディングの活用によるコロナ禍フード支援である100円食堂の実施、ワクチン接種を受けた2,040名の学生へのドリンクや即席麺の配付、学生634名へのレトルト食品の配付等を行っている。(中期計画1-3-2-1)

### 1-3-3 (小項目)

#### **【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

### <特記すべき点>

#### (特色ある点)

#### ○ 新しい就職支援ツールの導入

新たな就職支援ツールとして「LINE@」を導入し、各種就職セミナー等の開催案内・就職情報発信及び参加受付予約を開始し、ウェブサイト「OBOGプラットフォーム」を平成29年度より開設して、OBOGリストや就職活動の体験談やアドバイスの発信を行い、LINE@を通じて得た学生ニーズからOBOGプラットフォームの機能を改善している。(中期計画1-3-3-1)

## 1-4 入学者選抜に関する目標（中項目）

**【評価結果】 中期目標を達成している**

（理由） 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

## 1-4-1（小項目）

**【判定】 中期目標を達成している**

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

## 1-4-2（小項目）

**【判定】 中期目標を達成している**

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

## &lt;特記すべき点&gt;

（特色ある点）

## ○ 大学院教育のグローバル化

英語による大学院教育プログラムとして、これまでの「環境社会基盤国際プログラム」に加え、「独立電源システムを基盤とした社会インフラ整備のための実践型人材育成プログラム」及び「発展途上国貧困地域に適用するグリーン・サステナブルケミストリー技術開発を担う人材育成プログラム」を令和元年度に開設している。なお、これらプログラムは、文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に選定されている。（中期計画 1-4-2-1）

## ○ 社会人向けのインテンシブ・プログラムの実施

人文社会科学部（経済経営専攻）では、基礎能力がすでに高い社会人向けに前期課程から後期課程の博士号取得まで短縮修了を可能にする「インテンシブ・プログラム」、コースワークに重点を置いて学位論文に代えて特定課題研究成果物を審査する「課題研究プログラム」を導入している。（中期計画1-4-2-1）

(Ⅱ) 研究に関する目標

---

1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

2-1-2 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

2-2 研究実施体制等に関する目標(中項目)

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目) 4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-2-1 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。



## 2-2-2 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

## &lt;特記すべき点&gt;

(特色ある点)

## ○ 時間回復プロジェクトチームの設置

学長室に研究力／人材育成力の強化に向けた「時間回復プロジェクトチーム」を設置し、教員の管理運營業務負担を見直している。負担軽減策として、会計業務サポート強化、試験監督業務の軽減、検収業務の軽減、教授会での審議事項の最小化、Web投票の導入計画等を策定し、関係部局へ実施を促すことにより、教員の管理運營業務にあてられていた時間を削減している。(中期計画2-2-2-1)

## 2-2-3 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

## 2-2-4 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

3-1-2 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 首都高速道路の工期短縮への貢献

首都高速道路株式会社との包括連携を締結し、協定の一環として、共同研究したDAKプレキャスト壁高欄(鉄筋コンクリート製壁高欄を工場で作製し、現場に運んで組み立てる)の実大載荷実験を実施し、首都高速道路として初めての採用につなげている。なお、このプレキャスト壁高欄は、板橋JCT～熊野町JCTにおける渋滞解消のための車線拡幅工事の工期短縮のために用いられている。(中期計画3-1-2-1)

3-1-3 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 地域と連携した学生による課題解決

学生が参加する連携活動として、県、地域企業との連携による課題解決型プログラムの他、埼玉県、さいたま市への政策提言の場を設け「ピクトグラム入りうちわ」の提言などが政策として実施されている。(中期計画 3-1-3-2)

○ 企業連携に基づく課題解決型インターシップ

JR東日本大宮支社との連携協定に基づき、課題解決型インターンシップ授業を開講している。なお、この授業では、教育学部の学生が、栄養学に関する授業カリキュラムの中で考案したレシピのアイデアをもとに、JR東日本大宮駅構内商業施設のショップ「イーションベジプラス」と共同開発したお弁当が商品化されている。(中期計画3-1-3-2)

## (IV) その他の目標

---

### (1) その他の目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

#### 2. 各中期目標の達成状況

##### 4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

**【評価結果】 中期目標を達成している**

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

##### 4-1-1 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

##### 4-1-2 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

##### 4-1-3 (小項目)

**【判定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

### (2) 附属学校に関する目標

学校現場が抱える教育課題に対応するため、附属小学校及び附属特別支援学校においてICT機器を活用した教育を推進している。

**<特記すべき点>****(優れた点)****○ 働き方改革の推進**

附属学校園の労働環境の見直しに取り組み、令和2年4月には給与規則を見直し整備を行ったほか、部活動の活動時間の制限、宿泊学習の日数の見直し、一部の業務の事務職員への移管、職員会議の時間の制限等徹底的に業務の見直しを行っている。

また、児童生徒の1人1台端末をICT教育のみならず業務改善にも活用し、保護者との連絡、PTA 総会、学校内の会議や研究協議会の開催に、グループウェアなどを利用するなどの業務改善を行っている。

**○ ICT機器を活用した教育の推進**

附属小学校において、理科、体育、図画工作のグループワークの授業としてICT機器を活用しているほか、プログラミング教材とタブレットPCを連動させ、論理的な思考力の育成に取り組んでいる。また、附属特別支援学校では、1人1台端末を整備し、日常的に活用することで自立と社会参加に向けた取組を推進している。

|                  |
|------------------|
| Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況 |
|------------------|

| ＜評価結果の概況＞         | 顕著な<br>成果 | 上回る<br>成果 | 達成 | おおむね<br>達成 | 不十分 | 重大な<br>改善 |
|-------------------|-----------|-----------|----|------------|-----|-----------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化  |           |           |    | ○          |     |           |
| (2) 財務内容の改善       |           |           | ○  |            |     |           |
| (3) 自己点検・評価及び情報提供 |           |           | ○  |            |     |           |
| (4) その他業務運営       |           |           | ○  |            |     |           |

|                        |
|------------------------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標 |
|------------------------|

|                                   |
|-----------------------------------|
| ①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化 |
|-----------------------------------|

|                      |
|----------------------|
| 【評定】 中期目標をおおむね達成している |
|----------------------|

|  |
|--|
| <p>(理由) 中期計画の記載17事項中15事項が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、2事項について「中期計画を十分には実施していない」と認められること等を総合的に勘案したことによる。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された計画(4事項)についてはプロセスや内容等も評価)</p> |
|--|

|                            |
|----------------------------|
| (法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項) |
|----------------------------|

|  |
|--|
| <p>中期計画【28-1】及び【29-2】については、法人が掲げる目標が達成されておらず、また、達成されなかったことについての勘案すべき事情が認められないことから、「中期計画を十分には実施していない」と判断した。</p> |
|--|

|          |
|----------|
| ＜特記すべき点＞ |
|----------|

|          |
|----------|
| (改善すべき点) |
|----------|

|                            |
|----------------------------|
| ○ 中期計画を十分には実施していないと認められる事項 |
|----------------------------|

|   |
|---|
| <p>「40歳未満の優秀な若手教員の活躍の場を全学的に拡大し、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員としての雇用については、若手教員の雇用に関する計画に基づき、若手教員の比率が20%を越えるよう促進する。」(中期計画【28-1】)については、令和3年度の若手教員比率は15.7%であり、中期計画を十分には実施していないと認められる。</p> |
|---|

|                            |
|----------------------------|
| ○ 中期計画を十分には実施していないと認められる事項 |
|----------------------------|

|  |
|--|
| <p>「女性教員の採用比率を人文社会系部局においては40%、教育養成系部局においては30%、自然科学系部局においては20%以上に、また、女性事務職員の採用比率を50%とする。」(中期計画【29-2】)については、中期目標期間において女性採用比率は、人文社会学系29.7%、教員養成系部局29.4%、自然科学系部局15.5%、職員56.4%であり、中期計画を十分には実施していないと認められる。</p> |
|--|

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

### 【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載8事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### <特記すべき点>

(優れた点)

#### ○ 地域産学官金の協働インターフェイスの設置等による外部資金比率（共同研究）の上昇

地域活性拠点となる地域産学官金の協働インターフェイスとして、「先端産業国際ラボトリー」を設置し、異業種間や産学官セクター間などの壁を越えた人的ネットワークの場や先端産業インキュベーション・スペースを提供する等の様々な取組を行ったことで、全体として共同研究の受入件数・金額が増加したことに加え、平成28年2月に締結した企業との包括連携協定に基づき、大型の共同研究プロジェクトを開始したことで継続して個別の受入金額が増大したなどの影響によるり、平成28年度から令和3年度の外部資金比率（共同研究）は第2期中期目標期間の平均0.9%（1億737万円）から1.9%（2億3,292万円）と1.0ポイント増加している。

#### ○ 寄附によるグローバル化の推進

特定目的事業の寄附金の創設や積極的な広報展開により、増加した寄附金を活用し、学生の語学力向上、多文化理解に資するものとして外国人留学生と日本人学生との混住型の国際学生寮「埼玉大学インターナショナルレジデンス（84人）（3億5,000万円）」を設置するとともに、寄附者の意向に沿った給付型奨学金制度「冠奨学金基金」の開設により、留学生を含む学生支援を強化するなど、グローバル・キャンパス構築のための学内環境を整備している。令和3年度の基金の寄附件数と寄附金額は、718件1億188万円であり、平成27年度（62件342万円）と比較すると、656件9,846万円増加している。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

### 【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載5事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

---

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期目標を達成している**

(理由) 中期計画の記載8事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(改善すべき点)

○ 情報セキュリティマネジメント上の課題

令和3年度において、情報セキュリティを脅かす確率が高い事例が発生し、また、必要な情報セキュリティ対策が講じられているとは言えないことから、再発防止に向けた組織的な取組を更に実施することが望まれる。